



フードロス&ウェイト

当社グループでは、サステナビリティに関する取組みのマテリアリティ(重要課題)の一つとして「フードロス&ウェイト」に取り組んでいます。

目指す姿 (当社100周年を迎える2047年を想定)	2030年目標	2023年度実績 (基準年度比)
●家庭用食品の廃棄量を削減するために、サプライチェーン全体を最適化するプラットフォームを構築する	●廃棄金額2021年度比50%削減 ●返品金額ゼロ	●廃基金額: 18.3%削減 ●返品金額: 12.9%削減

フードドライブ

会社として実施しているフードバンク活動への協力だけでなく、従業員にも自ら参加していただくことで、食品ロスに対する意識を醸成することを目的として、本社では、家庭で保管されたままになっている食べ物を持ち寄り、まとめてフードバンクに寄贈する「フードドライブ」を年に2回(4月・10月)実施しています。

集まった食品は、フードバンク関西さまに寄贈し、その後福祉団体や子ども食堂、ひとり親家庭などに無償で配布されています。

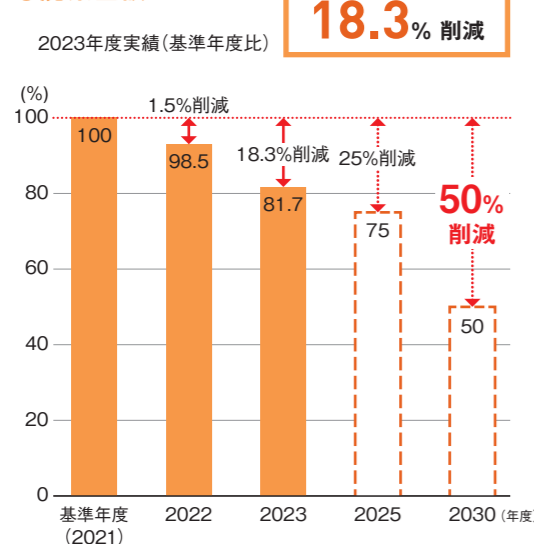
2021年度から本格的に開始し、従業員の食品ロスに対する意識が徐々に向上しました。



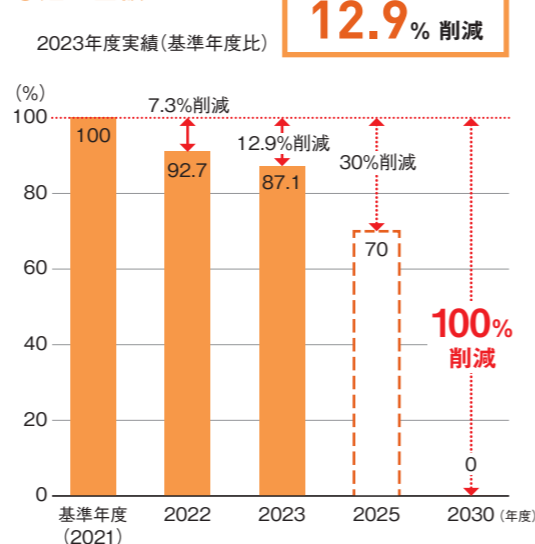
廃棄金額・返品金額の推移

2025年度に中間目標を掲げ、2030年に向けて廃棄金額・返品金額の削減に取り組んでいます。

●廃棄金額



●返品金額

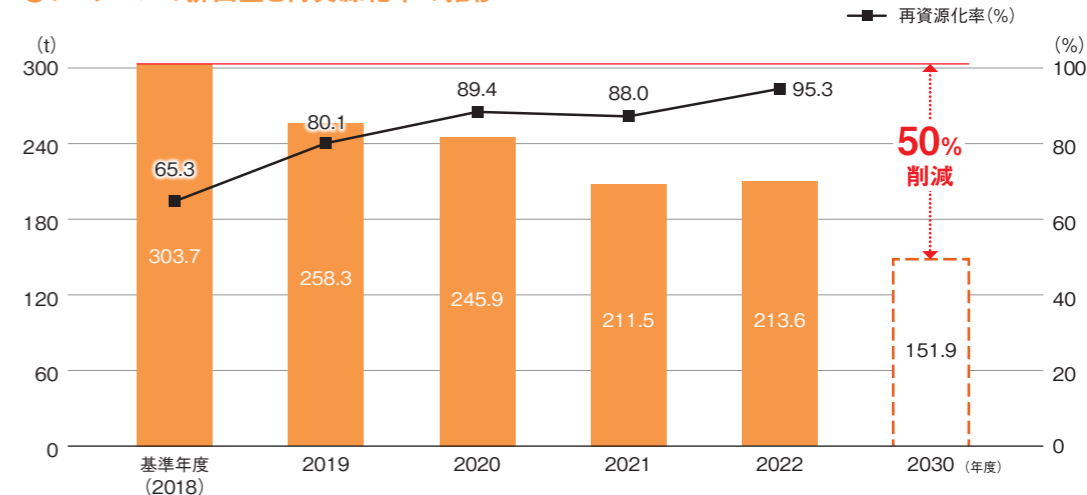


食品サプライチェーンでの協働

当社は、WRI (World Resources Institute: 世界資源研究所) が呼びかける「10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ」の「日本プロジェクト」に参加しています。

「10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ」とは、世界の大手小売業10社が、それぞれのサプライヤー20社とともに、2030年までに主要サプライヤーの食品廃棄物の半減に取り組むことを意味します。

●フードロスの排出量と再資源化率の推移



日本プロジェクトにおける当社目標

2018年度を基準年として、2030年に**50%削減**

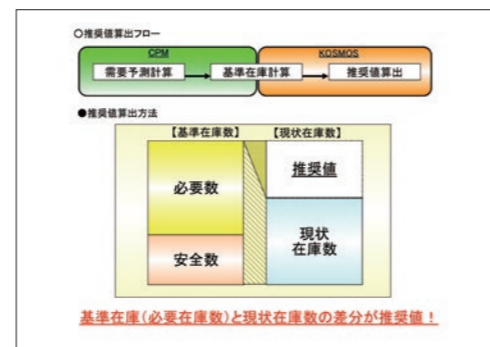
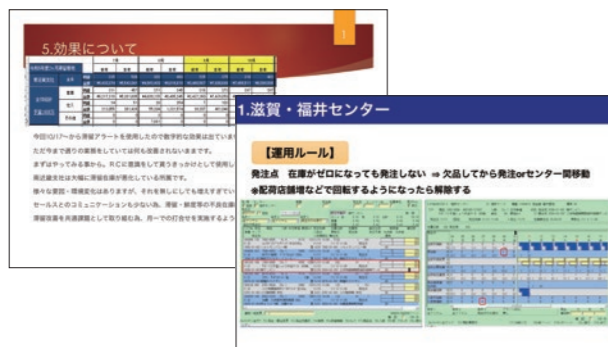
2022年度実績

排出量 **213.6t** 基準年度比 **29.7%削減** 再資源化率 **95.3%**

廃棄金額・返品金額削減への取組み

●商品の仕入や在庫管理に責任を持つユニットリーダーを対象とした会議において、各所属の現状の取組み内容・成功事例の共有および共有した内容を踏まえた取組みの報告を行い、数値改善に取り組んでいます。

●RC (Replenishment Controller: 補充管理担当者) 向けに、需要予測システム (CPM: Category Profit Management) に関する研修を実施することにより、在庫管理レベルの向上を図り、滞留在庫や過剰在庫の削減に取り組んでいます。



●お得意先さまごとの「納品期限」「返品状況」の調査を実施するとともに、納品期限の緩和および返品削減交渉を行いました。